

科目名	母性看護学方法論Ⅱ	対象学年・時期	2年・後期
講師	非常勤講師非常勤講師・専任教員	単位数・時間数	1単位・30時間
授業概要	母性看護学は、女性の生殖と次世代の健全な育成に焦点を当てた看護学である。そのため、将来の妊孕性に影響する月経異常については学生も自己の問題として捉え行動できる必要があり、重要な学習内容である。そして妊産褥期は母体の変化が大きく、看護が重点的に必要とされる。母性看護学方法論Ⅰでは、妊産褥期と新生児期の正常な経過とその看護を学習しており、ここでは、月経異常と不妊症、命をめぐる倫理、妊産褥期の異常とその看護について学習する。また、後半ではこれまで学習した知識を基に、褥婦と新生児をウェルネスの視点でアセスメントし、母性看護学における思考のプロセスを演習で体験的に学習する。		
授業形態	講義、グループワーク、プレゼンテーション、学内実習、ロールプレイ		
学習目標	1. 月経異常と不妊症について理解できる。 2. 命をめぐる倫理について考えることができる。 3. 周産期におけるハイリスクへの看護について理解できる。 4. 褥婦と新生児の看護に必要な思考プロセスについて理解できる。		
授業計画	1回目：命をめぐる倫理 2回目：不妊と月経異常 3回目：周産期の異常と看護① 4回目：周産期の異常と看護② 5回目：周産期の異常と看護③ 6回目：周産期の異常と看護 グループワーク① 7回目：周産期の異常と看護 グループワーク②(45分) 8回目：周産期の異常と看護 発表 9回目：アセスメントにおけるウェルネスの視点とヘルスプロモーション型看護診断 10回目：産褥期・新生児期の看護過程 アセスメント① 11回目：産褥期・新生児期の看護過程 アセスメント② 12回目：産褥期・新生児期の看護過程 気づきのリフレクション (学内実習) 13回目：産褥期・新生児期の看護過程 看護診断 14回目：産褥期・新生児期の看護過程 看護計画 15回目：産褥期・新生児期の看護過程 援助実施 16回目：終講試験 (45分)		
使用テキスト	ナースিং・グラフィカ 母性看護学②「母性看護の実践」第3版 小林康江他 メディカ出版 ナースিং・グラフィカ 母性看護学③「母性看護技術」第6版 荒木奈緒他 メディカ出版		
事前・事後学修	母性看護学概論、母性看護学方法論Ⅰの月経周期とホルモン、排卵・受精・着床・受精卵の細胞分裂、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の正常と看護等の知識を開講前に復習してください。事前学修・事後学修はその都度指示します。		

評価基準および評価方法	筆記試験 5 0 % ・ 課題 5 0 %
備考	